自分で考えるちから

田丸　あけみ

　私が５歳児で担任していた、小学生の男の子が二人、我が家に泊まりにきました。
　まず、家に入ってきて開口一番「あっ！これ懐かしい！」と私のジャンパーや筆箱、飾ってあったアトムの写真を手に取り笑顔で見ていました。夕食をとりながら学校の話やアトムの思い出話に花が咲きました。
私が「アトムの生活でどんな事を覚えているの？」と聞くと、教えてくれた事のほとんどが、自分達で考え工夫した遊びの話しでした。
例えば、一人の女の子を男の子５人が片思いし、自分達でどうするかを色々と考え、ジャンケンする事になり、勝った子がその女の子と結婚する事に決まった。という話や、「大きなかぶ」の絵本のストーリーを自分たちで独自に考えて、クリスマス会で皆に披露した事など話してくれました。
子ども達の話しをききながら、大人の指示ではなく自分達で考えアイデアを出し、取り組んだ事のほうが思い出深く残っているのだという事が伝わってきました。

　私の幼い頃は、保育園や学校生活の中で、指示待ちや言われた事に従うという事が多かったように思います。
先生の言うことが正しいから言う通りにする事が良いと教えられてきた人は、私だけではないと思います。そして大人へと成長し、いざ社会人になると「自分で考えて仕事をする。自主的に！」と、突然 180℃違う事を言われるのです。
　自分達で考えたら、良いアイデアがうまれる。みんなで考えていけばなんとかなるという体験が少ないまま大人になり、自主性が欠如し、上から言われる事には一生懸命に動く。
自分への信頼感が薄く、自尊感情も低いが故、社会の中で生きづらさを抱えている人はたくさんいると思います。私もその一人です。
　だからこそ、今、目の前にいる子ども達につけてほしい力も自ずと見えてきます。
自分達で発想し考え、知恵やアイデアを出しながら自ら作り出していく体験を通して、自分達で作る事はおもしろいと感じる心を育んでほしい。
私たちが、育ってきた環境を今一度見つめ直し、目の前にいる子ども達に、どんな力をつけてほしいと願うか？を考えていく事は、大人になった私達の役割だと感じずにはいられません。